

令和8年度おすすめ 人権教育・啓発用DVD の紹介

見上げれば (34分)

企画：兵庫県

2年間ひきこもり状態で大学を休学している主人公の陽人。ひきこもり支援窓口で母親が相談したことがきっかけで、陽人の中学時代の友人樹と再会します。お互いの趣味であったゲームを通して、つながりあう2人。そんな中、樹もひきこもりであったことを告白します。

早い段階で適切な支援につながる重要性、信頼できる他者とのつながりや寄り添ってくれる人のいる「居場所」が回復のきっかけとなります。どのような状況の人にも、寄り添い合い、誰もが支え合える社会の実現について考えることのできる作品です。



窓の向こうへ (36分)

主人公の拓海はインターネットのライブ配信を始めます。リスナーたちとのやり取りの中で、「通り魔事件の被害者」への発言、「お手伝いをする小学生」の話題、そして、拓海が配信で発した言葉がインターネット上で批判を浴びます。

そうした「窓」を通じたコミュニケーションにより、「わたしもあなたも大切なんだ」という事が描かれています。

今、高齢者が狙われている！ (16分)

ここ数年、犯罪件数は著しく増加しています。特に「おれおれ詐欺」や「年金詐欺」など高齢者が犯罪の格好のターゲットとされています。このような高齢者を狙う悪質な犯罪被害にあわないために、どのようなことに気をつければよいのか、日常生活を振り返るきっかけになる人権啓発ビデオです。



君の景色を知ったとき (30分)



主人公の蓮は、図書館でバイトをはじめます。そこで視覚障害のある健介やブラジル人のジュリア、発達障害のある理央と出会います。健介やジュリアの日々の困りごとを知る蓮に健介は、「大多数の人にとっての当たり前から、こぼれ落ちる人がいる。でも、人の力で補ったり、支え合えるはず」と話します。

障がいのある人や外国人、子どもや高齢者など多くの人にとっての「当たり前」に不便を感じる人がいると気付くこと、そしてそれを人の力で支え合うことの大切さについて考えていきます。

交わす言葉 通う心 (23分)



社会には、障がいのある人が不便を感じる場面がまだまだ存在します。視覚障害、内部障害、車いすユーザーの方が日頃不便に感じている場面について、実際起こったことをドラマ仕立てて再現しています。障がいのあるなしに関係なく、誰もが平等に、自分らしく生きる社会のために大切なことを考えることができる作品です。

うみとりくのからだのはなし (16分)



ふたごのうみとりくは、そっくりだけど、ぜんぜんちがいます。りくはおかあさんになでられるのが好きだけど、うみはなでられるのが苦手です。

性犯罪から身を守ることはもちろん、相手の体を尊重する態度を身につけるとともに、包括的性教育や「生命の安全教育」としても最適です。